

ムツウサでしま興し

宮古毎日新聞

発行所
宮古毎日新聞社
沖縄県平良市西里403
郵便番号906-0012
郵便振替口座17040-8593551
私書箱・宮古中便第19号
©宮古毎日新聞社2004
代表 0980-72-2343
FAX 0980-72-3733
那覇支局 098-861-9091
FAX 098-861-9092
東京支社 03-5565-3008
FAX 03-5565-3009

地域資源 活用講演会

大学教授ら効能示す

新たな産業育成に光



大学教授らがムツウサの効能を実験データを基に示した=9日、マティダ市民劇場

「第三回地域資源を活かしたしま興し講演会」(主催・城辺町、共催・武蔵野免疫研究所、うるばな宮古、かぎすま宮古)が九日午後、平良市のマティダ市民劇場で開催され、大学教授らが宮古島のビデンス・ピローサ(和名・タチアワユキセンダングサ、方言名・ムツウサ)の効能などを紹介した。会場には地元だけでなく島外からも三百人以上が参加、ムツウサの限らない可能性について考えた。城辺町の仲間克町長は「ムツウサの効能について、地元でも認識を深めてほしい」などと話し、地域資源を生かした新たな産業の育成に協力を求めた。

この講演会はムツウサという宮古島の地域資源を生かした島興しが狙い。この趣旨に賛同し沖縄総合事務局や県、県産業振興公社が後援するなど、これまで「雑草」と呼ばれていたムツウサに期待を寄せている。講演会は午後四時三十分から開かれた。はじめに県産科大学臨床化学教室の瀬山義幸教授が講演し、ムツウサの効能を紹



瀬山義幸教授



増澤幹男教授

介した。「ムツウサはビタミンEやビタミンCに類似した抗酸化作用を有する」とした上で「過酸化脂質により誘発される疾患(糖尿病や動脈硬化など)を予防する」などと話した。ほかにインスリンの分泌促進や血糖を下げる効果も示した。北里大学医学部皮膚科の増澤幹男教授はムツウサを主成分とするお茶による病気の予防について講演。実際の患者に服用してもらったデータを示し、「特に、手足の冷えが改善された人が多かった」と強調した。さらに

口内炎を抑制することも報告。まとめとして①熱を下げる②痛みの軽減③炎症を抑える④毒作用を除く⑤血液中の脂肪を少なくする⑥血液の流れを良くする―とした。会場の参加者はそれぞれの教授の報告を聞きながらうなずき、メモを取るなどしてムツウサに関する知識を深めていた。講演会ではほかに、宮古農林高校の前里和洋教諭が「宮古島の農業の活性化と地下水保全との共生を目指して」と題して講演したほか、アトラクションも催され、最後まで大きな盛り上がりを見せていた。

宮古島では現在、十四農家が計七畝でムツウサを栽培している。城辺町や武蔵野免疫研究所によると、ムツウサは花粉症やアトピー、糖尿病の治療に役立つため、近年は全国各地で脚光を浴び始めているという。すでにムツウサを原材料とした商品は「かんぽう茶」などが販売されており、全国各地に愛飲者がいるという。